

2030 ユビキタスキッチン

Ubiquitous kitchen

AD 36 白根 龍治
指導教員 島津 豊

1.研究目的

コンピューター社会が細かなユーザーニーズに合わせてより複雑に進化を続けている現在、より快適なネットワーク環境を実現するために『ユビキタスコンピューティング』と言う理論が注目を浴びている。そこで私は近い将来に到来するであろうユビキタス社会を想定し、それによってどんな変化が起こり、それをデザインでどのようにより良い物に出来るかを調査研究、提案する。

2.調査と分析

「ユビキタス(Ubiquitous)」とは「いたる所に偏在する」と言う意味で、『ユビキタスコンピューティング』は様々な電子製品がネットワークで結ばれ、いたる所でインターネットにアクセス出来るような新しいネットワーク形態である。

今までキッチン家事と言う様々な作業によってユーザーの自由な行動を阻害していたが、現在はネットワーク環境の普及により家を出ずに外部との触れ合いを楽しんでいる。そしてニーズはより快適さを求め、自由な時間を奪う家事を軽減する技術や、家事の中心であるキッチンから外部と繋がるような環境を求めている。裏付けを執るための独自調査では、「あなたの家で電子製品が最も多い場所はどこですか?」と言う質問に対し、「キッチン」と答えた人は28%で、「リビング」「その他個室」と言う回答が大半だった。これはキッチンを手が管理する場所と認識しているため、これによって現状とニーズのギャップが発生している。現在のキッチンは個々の電化製品が多くあるが、パソコン、オーディオなどの電子製品の類が少なく、ユビキタスによってキッチンの電化製品も集中コントロール出来るかもしれない事にユーザーが気付いていないのだろう。

これがユビキタス社会の到来によって修正されれば、キッチンの形態に大きな変化が起こると推測出来る。

3.コンセプトの立案

現在のキッチンはユーザーが一人で使うことが多く、生活の拠点になっている場合がある。このため一人で作業を進めなければならない、そこから情報収集などの外部へのアプローチも難しい。それ

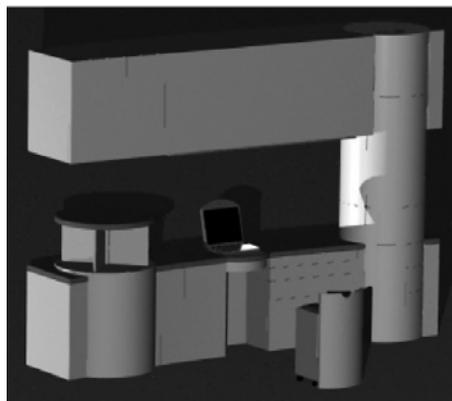
をユビキタスコンピューティングによってサポートし、より簡単に楽しく使えるような環境を提案する。

4.デザイン展開

数ある電化製品の統括コントロールが容易になり、外部の情報取得が可能になるかを検討し、その答えとしてキッチンユニットにパーソナルコンピューターを搭載する事を考案した。コンピューターと電化製品を繋ぐ事によって制御する事が可能になり、インターネットによる情報収集なども出来るようになる。

また今回は新しい時代の到来を世間に認識してもらうためのフラッグシップの意味合いも兼ねるため、今までには無かったキッチンを生活の中心に出来るオープンなデザインを提案する。

5.完成図



6.結論

完成したモデルを主婦に見てもらった結果、「もう少し主婦を解ってほしい」との指摘を受けた。今回はユビキタス社会からのアプローチと共に、ユーザーからの視点も考慮すればさらに良い提案が出来るようになるだろうと思った。

7.参考文献

磯和春美, 2001, 「ユビキタスで世界は変わる」
(<http://www.atmarkit.co.jp/fitdiz/column/reg031/reg1.html>, 2006. 8.11)

ウィキペディア, 2006,
「ユビキタスコンピューティング-Wikipedia」
(<http://ja.wikipedia.org/wiki/>, 2006. 5. 8)